

ひかく 皮革面積計

ひかく 皮革面積計って何？

くつ 靴やカバン、ベルトなどで牛や豚ぶたの革が使われることがあります。でも、革の面積を測るのは、とても難しいのです。なぜでしょう？

それは、革の形が不規則だからです。四角い紙の面積なら、「たて×よこ」で簡単に計算できますが、革は、でこぼこしていて、形がバラバラです。

そこで発明されたのが「ひかく
皮革面積計」という機械です。

この機械は、複雑な形の革を小さな部分に分けて測り、それを全部足し合わせて面積を出すという、とても賢かしこい仕組みになっています。



日本での誕生

世界で最初にひかく
皮革面積計を作ったのは、ドイツのターナー社だといわれています。

日本では、明治40年（1907年）に、大阪の四ツ橋製作所が外国の機械をお手本にして作り始めました。東京では、昭和6年（1931年）に柳瀬やなせ製作所が第1号機を完成させました。

計量法で正式な計量器に

昭和26年（1951年）6月、新しい計量法ができたとき、ひかく
皮革面積計は正式な計量器として認められました。それまでの度量衡法どりょうこうほうの時代には、この機械は法律の対象ではありませんでした。

東京都では、昭和27年（1952年）から新しく作られたひかく
皮革面積

長さ計（ものさし）

タクシーメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器

計の検定を始めました。修理したものについては、昭和 33 年（1958 年）から検定が始まりました。

検査の方法

皮革面積計は大きな機械なので、持ち運ぶことができません。そのため、検査員が革を扱う工場や会社に出張して、その場所で検査を行います。

検査には、正確な面積がわかっている「基準面積板」という板を使います。

材料は、厚いものはゴムシート、薄いものはファイバー（繊維板）で作られています。形は円形のものが多く、検定所には 1 平方メートルのゴムシート製の円形板が用意されています。

昭和 27 年（1952 年）～昭和 49 年（1974 年）、検定を受ける皮革面積計の数は、年間で 4 台から 10 台程度でした。でも、革を扱う仕事をしている人たちにとっては、とても大切な機械なのです。

単位の変化

皮革面積計で使う単位も、時代とともに変わりました。昭和 34 年（1959 年）1 月までは「尺坪」という日本の単位を使っていましたが、それ以降は「平方デシメートル (dm²)」というメートル法の単位を使うようになりました。

現在、皮革面積計には、ピン式、ローラー式、光電式の 3 種類があります。それぞれ仕組みは違いますが、どれも革の面積を正確に測るといふ、同じ目的のために使われています。

革製品を作る職人さんたちが、正確な面積を知ることによって、適正な価格で取引ができるのです。皮革面積計は、そんな大切な役割を果たしています。



せん い ばん

長さ計（ものさし）

タクシーメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器